

「病理学図譜」

Atlas der pathologischen Anatomie = 日本版

〔著〕 W. Doerr, G. Schumann, G. Ule

〔訳〕 慶応義塾大学病理学教室

愛知県がんセンター研究所長

赤 崎 兼 義

Wilhelm Doerr 教授とその協力者らによって刊行された Atlas der pathologischen Anatomie は近来まれに見る名著である。

Doerr 教授は循環器病理学の権威として世界的に有名であるが、その講義もまた素晴らしい。早朝7時に始まる講義では2～300名を収容出来る講堂がいつも学生で一杯になるということからも、彼の講義の魅力的なのをうかがえよう。

教授には講義を主体とした学生向けの教科書 Heidelberg Taschenbücher 4巻の他、専門書の著述が多いが、中でも1975年に Georg Thieme から出版された本書は恐らく教授にとり最も快心の作であろう。

その緒言によると、教授が Bruno Hauff 名誉博士のすすめに従い、こ

の図譜を出版する決意をされてから、刊行までに実に20余年の歳月を経ているとのことで、その準備に如何に大きな努力を払われたかが推察される。

874図にのぼるカラー写真は全身の重要な病変をほとんど網羅し、それらは肉眼像と組織像の両者からなり、その適切な配置が病変の理解を大きく助けているといえよう。図譜の説明は簡潔で、要を得たものであるが、更に詳しい理解を望む読者のためには自著の該当頁が脚註に示されている。

著者らは本書の購読対象を臨床コースを学ぶ学生、修練生（インターン生）、CPCに協力する医師たち、および短期間に病変の基礎知識を習得しようとする臨床家や基礎医学者などにおいているが、病理学の基礎

を学ぶ学生にも絶好の参考書となるう。

このような名著の日本語版が、この度医学書院の努力と慶大病理学教室の協力で出版の運びとなったことは、近年とみにドイツ語ばなれの目立つ医学生や若い医学者にとって何よりのよいプレゼントと見るべきである。図譜の生命であるカラー写真は、日本語版もすべてドイツで印刷されているので、いささかもドイツ語版にひけをとらない。

最後に Doerr 教授は仲々の名文家なので翻訳の衝に当たられた慶大病理の方々の苦心には並々ならぬものがあつたことと思われ、その労を多としたい。

A 4変型 頁338 原色図959 1976
¥38,000 ㊦600 医学書院刊